

防疫用殺虫剤の使用に関する留意事項

1) 顧客に対する注意

- ① 事前に殺虫剤の種類、散布方法、注意事項を通知して下さい。
- ② 依頼者からの疑問点、質問（特に薬剤についての質問）に対しては、誠意をもって依頼者が納得するまで説明を行って下さい。
- ③ 後日にトラブルを起こさないため、面談調査を行って下さい(表 1、2 のような「事前調査確認表」、「作業内容確認表」の使用が望ましい)。
- ④ 病人、特異体質者、妊婦、乳幼児等は、薬剤の影響のない場所に移動してもらって下さい。
- ⑤ 薬剤を散布している場所に近づかない、特にお子様やペットが散布時、散布直後に立ち入らないよう注意してください。
- ⑥ 屋外散布の場合、散布時は散布場所に面する窓やドアは閉めて、洗濯物を外に干さないようお願いしてください。
- ⑦ 作業中および作業後、用法・用量に準じ、一定時間は入室しないようお願いしてもらって下さい。その後十分な換気を行ってから入室してもらって下さい。特に過敏症等の方は、さらに入室を控え体調を確認しながら入室してもらって下さい。
- ⑧ 殺虫剤を散布した室内のものを洗浄する場合は、よく換気し、保護具を着用して直接薬剤に触れない様にして作業してもらって下さい。

2) 作業者に対する注意

(ア) 全般にわたっての注意

- ① 日頃から害虫や薬剤や関連法規等の専門知識の習得に努め、理解力、判断力、そして行動力を養っておいて下さい。
- ② 業務内容をきちんと記録整理しておくよう心がけて下さい。とくに、殺虫剤の種類や使用量を場所ごとに記録することが必要です。
- ③ 薬機法で対象になるねずみ、昆虫等の防除には、医薬品または防除用医薬部外品を使用し、定められた用法・用量、使用上の注意を厳守して下さい。
- ④ 作業に当たっては、心身ともに健全な状態にあるよう努めて下さい。過敏症の人、病気、二日酔い等で体調のすぐれない人、作業前に飲酒した人は作業に従事しないで下さい。
- ⑤ 作業は基本的に二人以上の編成で行なうようにしてください。

(イ) 作業開始前の注意

- ① 食品、食器、飼料、おもちゃ、寝具、衣服、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品、コンピュータなど精密機器等はあらかじめ他へ移す

か、格納し、薬剤がかからないようにして下さい。

- ② 保護具（長袖の作業衣、作業帽、保護メガネ、保護マスク、保護靴、ゴム手袋など）および使用する防除機器は、あらかじめよく点検整備して下さい。作業に際しては、保護具を必ず着用し、身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないようにして下さい。
- ③ 使用前に必ず使用薬剤のラベルをよく読み、充分理解した上で使用して下さい。
- ④ ラベルに記載された効能または効果にしたがい、用法及び用量を厳守して使用して下さい。間違った使い方をすると効果不足や健康を害することがあります。サービス精神から過剰散布をすることは、かえってよくありません。
- ⑤ 希釈する場合は水がはね返らないようにして、均一に攪拌し、手で直接かき混ぜるようなことはしないで下さい。また、薬液の容器は専用のもので、他との兼用はしないで下さい。
- ⑥ 薬剤は必要量だけ分取して調製し、その都度使い切して下さい。
- ⑦ 薬剤と他の薬剤とを混合したり、加熱したりしないで下さい。

(ウ)作業中における注意

- ① 塗装面やプラスチック、液晶画面、コンクリート及び大理石などの石材、漆喰、白木、壁紙、壁布、Pタイル等に薬剤が付着した場合は、変色・変形する場合がありますので、覆い等の処置をして薬剤がかからないようにして下さい。金属の中にも腐食したり変色したりするものがあるので注意して下さい。
- ② 変質・変色する恐れのあるビニールタイル、カーペット等にどうしても薬剤処理を行なわなければならない場合は、前もって小片又は隅の一部でテストをして薬剤処理作業の可否を判断してから作業して下さい。
- ③ 油剤・乳剤の原液、エアゾールは引火のおそれがあるので、火気等の着火源がある場所では使用しないで下さい。また、電気火花が発生しそうなどころでは電源を切ってから使用して下さい。コンセント、配電盤、冷蔵庫のモーター部分、むき出しのコード等に薬剤がかからないようにして下さい。
- ④ ハロンガスや炭酸ガス消火設備のスイッチ盤に薬液が流れ込むと、ガスが放出されることがありますので、周囲に薬剤を撒かないでください。
- ⑤ 煙霧処理・燻煙処理・炭酸ガス処理を行なう場合は、煙探知器の有無を確かめ、検知器が反応しないような配慮をして下さい。高熱になる機器もあるので、焼け焦げ、火災に注意して下さい。
- ⑥ 薬剤処理をする時は、いつも身体を風上に置くように心がけてください。
- ⑦ 毒餌剤を用いる場合は、人畜が誤食しないよう充分留意し、必要に応じて誤食防止処置（ベイトボックス等の利用）を講じた上で使用して下さい。

(エ)作業後における注意

- ① 煙霧処理・燻煙処理・U L V処理・炭酸ガス処理を行なった後は、一定時間室内に入らないで下さい。その後十分な換気を行って下さい。
- ② 散布処理・噴霧処理を行なった後は、十分な換気を行って下さい。
- ③ 作業終了後は、直ちに手足を石鹼と水でよく洗い、うがいをして下さい。その後入浴して身体、毛髪等をよく洗って下さい。
- ④ 作業時の衣服は他の衣服と区別して洗濯し、保護具も洗剤を使ってよく洗って下さい。
- ⑤ 残った原液や希釈した薬液は必ず持ち帰り、適切な処理をして下さい。
- ⑥ 汚染した器物や洗浄液は、作業現場から持ち帰り、処分に当たっては、自治体の条例や指導にしたがって処分して下さい。河川、湖沼、下水道等の水系や地下水を汚染するおそれのある場所には捨てないで下さい。
- ⑦ 散布後洗浄する場合には、換気をして作業して下さい。

(オ)保管上の注意

- ① 薬剤は、食品、飼料等、他のものと区別して定められた場所に保管し、部外者や子供、犬、猫等が侵入しないよう施錠しておき、盗難、紛失、流出等の事故防止に努めて下さい。
- ② 薬剤は直射日光が当たらない乾燥した涼しい場所に保管して下さい。
- ③ 期限切れの薬剤は産業廃棄物処理業者に依頼して処分して下さい。

(カ)問題が発生した場合の対処

- ① 薬剤が皮膚に付いたときは直ちに石鹼と水でよく洗って下さい。万一、薬剤が目、口などに入った場合には直ちに水でよく洗い流して下さい。
- ② 万一、誤って薬剤を飲み込んだ場合や、薬剤の使用により、頭痛、目や喉の痛み、咳、めまい、吐気、気分が悪くなった場合等には、直ちに使用を中止し、空気の清浄な場所で安静にして、医師の診察を受けて下さい。医師の診察を受ける際には、使用薬剤の名称、成分名、症状、被曝状況等について出来るだけ詳細に医師へ告げて下さい。
- ③ 作業員は万一の事故に対して適切な処理ができるよう、日常心がけておいて下さい。

以上

表1 事前調査確認表

作業現場名	所在地	確認日	年 月 日
	依頼者名	会社名	
	電話番号	住所	
		電話番号	
		作業責任者	印

<事前調査事項>

調 査 事 項		処置済
人 物	乳幼児 妊婦 老人 特異体質 病人 その他 ()	
動 植 物	犬 猫 小鳥 観賞魚 活魚 鉢植え 庭木 その他 ()	
貴 重 品	絵画 彫刻 置物 楽器 家具 電気製品 その他 ()	
屋外貴重品	石碑 燈籠 銅像 自動車 その他 ()	
建 材	プラスチック 漆喰 白木 石材等の壁材・床材 敷物 その他 ()	
環境関係	同意を得た方が良い隣人の有無 () 養魚場、養蚕場、養蜂場、畜鶏舎等の有無 () 留意すべき井戸、地下水等の有無 () 近隣とつながっているダクト等の有無 () 簡易浄化槽・廃水への影響の有無 ()	
そ の 他	スプリンクラー、警報機等の有無と場所 () 1ヵ月位の間に行なった他の工事、処理の有無 () 配線、配管等すでに故障している箇所の有無 ()	

<事前処置の方法>

1. 人物	乳幼児、妊婦、老人、特異体質者、病人等は薬剤の影響の無い場所に移動して下さい。 そして、作業が良いというまで作業現場に近付かないで下さい。
2. 動植物	①犬、猫、小鳥は薬剤の影響の無い場所に移動させて下さい。そして、鎖で繋ぐか籠や小屋に入れて、作業が良いというまで作業現場に近付かないで下さい。 ②鑑賞魚や活魚は水槽を薬剤の影響の無い場所に移動させて下さい。それが出来ない場合は、水槽に覆いをし、空気の取入口ホースの先端を影響の無い所に持って行って下さい。それも出来ない場合は、水槽に覆いをした後施工を行うので、その間エアポンプを一時停止して下さい。 ③鉢植え等の植物も薬剤の影響の無い場所に移動させ、作業が良いというまで元へ戻さないで下さい。
3. 貴重品	絵画、彫刻、置物、楽器、家具、電気製品等で動かせるものは、薬剤の影響の無い場所に移動させて下さい。 動かせないものには、覆いをして下さい。自動車も移動させるか、覆いを掛けて下さい。

表2 作業内容確認表

下記の作業内容について、依頼者、作業者双方で確認を行った後、作業責任者が捺印し、複写の一部を依頼者に提出してから作業を行って下さい。

作業日時	年 月 日 時～ 時
場 所	*詳細は別途図面参照のこと
作業責任者	氏名 印

対 象 害 虫	ハエ 蚊 ゴキブリ ノミ イエダニ 室内塵性ダニ その他 ()			
処理薬剤	系 統	有機リン系 ピレスロイド系 カーバメート系 その他 ()		
	剤 型	乳剤 油剤 粉剤 粒剤 水和剤 マイクロカプセル剤 燻煙剤 炭酸ガス剤 その他 ()		
	製 品 名			
	処 理 量	希釈倍率 (濃度) 倍	処理量 ml/m ²	g/m ²
	に お い	<種類> 特 異 臭 アルコール臭 石 油 臭 芳 香 そ の 他	<強さ>	強 中 弱

作業条件	
------	--

作業のため処置したものを元に戻す時期	
--------------------	--

特記事項	
------	--